

巻機山周辺山スキー

手塚紀恵子, 井村修康, 佐藤昌彦, 高橋真司, 鈴木鉄也

井戸尾根からブサノ裏沢、トトンボ尾根を経て柄沢を巡る予定が悪天のため、巻機山東面は滑ることが出来なかった。

3/19 清水 → 井戸尾根 → 巻機山避難小屋

3/20 巻機山避難小屋 → 井戸尾根 → 清水

3/21 清水^{6:00}/_{13:20} → 柄沢 → ^{11:30}/_{12:10} 柄沢山 (往復)

越後湯沢駅に佐藤さんを最後に5人が揃う。清水部落には、20時頃着、除雪終了点に駐車し、テントの中で寝る。

朝7時頃、出発。降雪でいくぶん気が重い。車道を避けて、ノミオ沢側を巻く踏み跡があったのでそれを利用する。

米子沢橋に3張のテントがあった。

井村さんのシールがはずれる。ガムテープで止め、井戸の壁を登りきった上で10時になってしまい、高橋さんが下山することになり、シールを替えて貰う。

視界不良。葡萄坂、焼松と登って行く。結構すべり降りてくるパーティが多い。

井戸の壁はやはり、ツボ足の方が早く、板を引きずったが、檜穴の段の急登は、

まだらにアイスバーンとなり、スキーアイゼンが有効だった。

巻機の避難小屋に入れるというので、下の階にツェルトを張る。13時半頃着。

昨日と同じような天気でブサノ裏沢は完全に諦め、とりあえず牛ヶ岳めざして8時頃出発。ガスで何も見えず、たぶん巻機山のピークは踏んだらうということ

で早々に引き返す。ニセ巻機山からのスベりは、昨日の登りの方が恐いくらいで今日は、楽に滑って

行ける。井戸の壁の上に荷物を置き、標高約1200m~1564mを又登り返し、スキーを楽しむ。展望台からは左のナメ沢(米子沢)側がスキー向きの斜面で、雪質もそちらの方が

良く、危うく下り過ぎてしまいそうになる。^橋井戸の壁の滑降は、悪雪とヤブ木立の格闘で、米子沢に全員揃うまでずいぶん

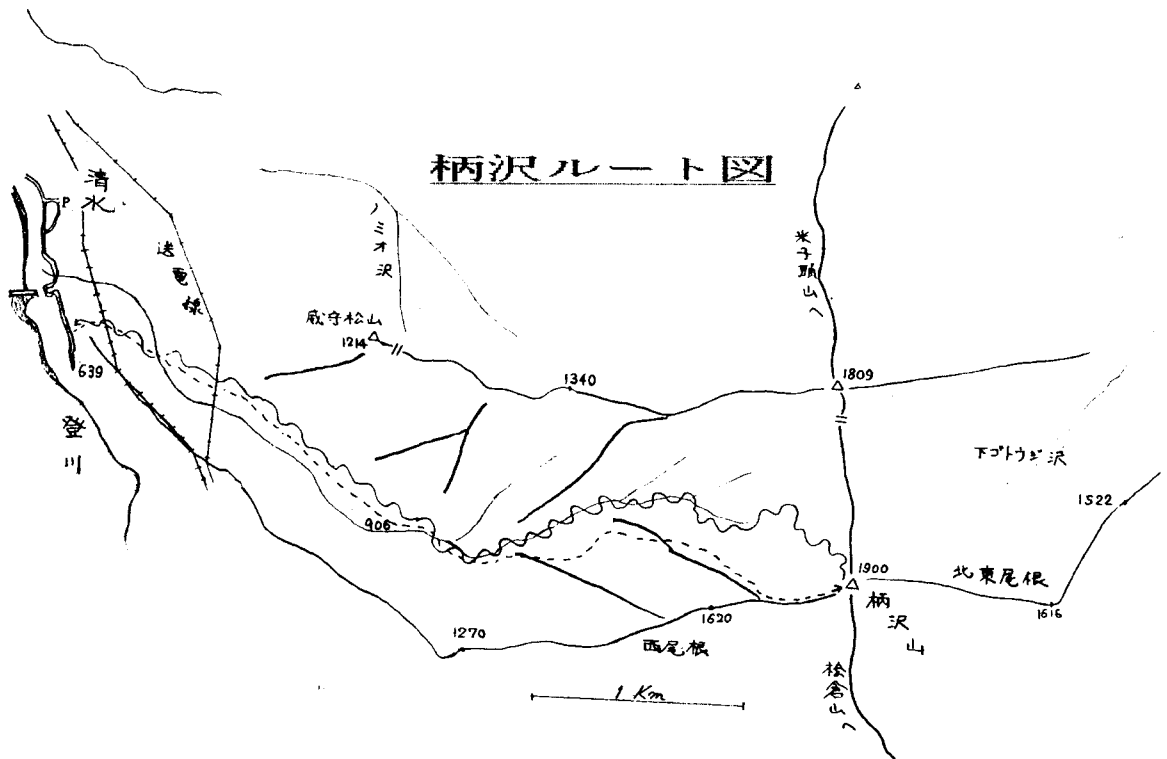
時間をくった。14時頃、清水に着く。井村さんが、首が痛いというので、夕食後、湯沢まで送って行きメンバーは3人になってしまった。

ここで、長い苦闘の登りと豪快なスキーを共に堪能する、手塚・佐藤・鈴木を「柄沢トリオ」と命名しよう。

最終日に望みをつないで、4時に起床。天気はいいとは言えないが、柄沢の滑りを期待して6時に出発。

除雪された車道と別れる。トレースが付いていた。一旦、沢を渡り、最初の大きな二俣を過ぎるあたりでまた左岸へ。

その辺から、威守松山側の尾根に取り付いてもよさそうだった気がする。



先行のトレースは、ここまでで、雪のブロックを崩したような整地跡があった。たぶん、悪天で引き返したと思われる。

沢筋にはもう上がれないので、右側を巻くようにジグザグ登行し、1250mの標高あたりを、次の上の枝尾根状までトラバースぎみに登って行く。無理に下に降りずにそのまま、右へと登って行く。アイスパーンと急な登りで、遂に板をはずし、アイゼン登行となる。結構きつい。

1620mの尾根(西尾根)と合流するあたりで傾斜も弱まり、一休止。

私の靴はすぐダンゴになってしまい、えらい歩きにくい。

ますます視界不良となった雪稜を、ひたすら登って行く。

長丁場をやっと柄沢山の頂上にたどり着いて、先頭を行く、佐藤さんがバンザイでもしたのかと思ったら、あっと言う間に視界から消えた？

柄沢山のピークの真ん中が、クレバスになっており、2~3m下で、啞然というか、落ち込んでというか蹲っている。

小1時間程、休憩中、2度3度ガスが晴れ、眼下に北東尾根、奥利根湖、それから至仏山から平ヶ岳への稜線、皇海山あたりまで見えたが、巻機山、松倉山方面は、全く見えなかった。

頂上あたりは、エビのシッポが、シャバシャバ音をたてるくらいのガサガサの斜面だったが、柄沢カールともいうべき、大斜面は、幸か不幸か視界はなかった。

300mほど降りると、ますます急になり、雪崩が怖い位で、下に落ちていくというような滑りに、もう大満足。

もし、頂上から下まで見えていたら恐怖心が先走ったに違いない。

沢筋が狭まるあたりから、水の流れが見え、へつり気味に降りては、渡り返して、登って来たトレースにぶつかる。

車道までの一気の1300mの下りは、今山行の締めくくりと、東面を滑れなかったウサを晴らしてくれた。

湯沢で、佐藤さんと温泉に入り、一人食事したとき飲んだアルコールをさますため、車の中で横になってたが、ずいぶん帰りの車が少ないので、高速に乗った。でも、高崎あたりから渋滞となり、結局、途中で仮眠し、朝帰りとなる。

L、記 鈴木